

# 「技術のサノヤス」再び

半年研修でモノづくり力

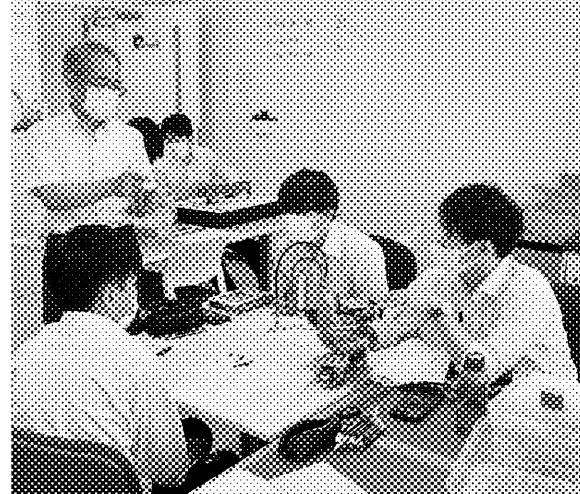
サノヤスホールディングス（HD）がグループ横断の技術力強化に乗り出した。半年間かけ技術系人材を育成する人材開発拠点を2022年秋に設置したほか、年次にかかわらず全員に1泊かけて講義する対面研修も開始。次期経営者層を育成する管理職向けの「会長塾」は2期目に入った。グループを支えた造船業の売却で技術力や求心力の低下が懸念される中、「技術オリエンテッド」集団の再興を急ぐ。

（大阪・大川藍）

「何の会社かが分からぬ」といふ。「歴史にピントくるところが少ない」。サノヤスHDの上田孝会長が主催する会長塾では、塾生から率直な意見が相次いだ。10人弱が対話しながら意見を発表し合う場で、打ち解けた雰囲気の中、会社のあり方を議論できるのが特徴だ。造船売却後に入社した管理職もあり、上田会長がHDの歴史をひもときながら課題や将来像を問い合わせる。22年始めた取り組みで、経営層へ直接意見を届けられる機会とし、て受講者から好評だ。

同社は財政難から21年2月に祖業の造船事業をばりげとする産業機械製造や立体駐車場を売却した。現在はショットプラスマン（M&A）（合併・買収）で広げた11の事業会社で構成する。中小企業の集合体ゆえに中途入社の社員も多く、入社5年以下の社員が3割を占める。造船があつた時代と比べて、経営陣の言うことが下まで伝わらないことが増えた。（坂根誠執行役員）ほか、技能伝承の場も失われつづいて、そこで、これまで実

## 管理職には「会長塾」



会長塾で10人弱が対話しながら意見を発表し合う  
サノヤスHD傘下のサノヤステクノサポートが実施する技術研修

（二）も放置にならがち」（花田恵二取締役執行役員）だが、新入社員をセンター専属としてすることで研修に専念してもらえる仕組みを作った。

さるビジネス系社員への1日研修も実施し「3年間で全社員に

何らかの研修を受けて専念してもらえる仕組みを作った。

施してきた技術研修を発展させる形でグループ内に「技術人財開発センター」を新設。新たに技術系人材へ、半年間かけ機械設計や3次元CADの基礎を学ばせる。

造船売却前の半分に満たず、「中堅企業が生き残るには技術力で勝負するしかない」（上田会長）と危機感は強い。HD企業の強みを生かし、造船で培った「技術オリエンテッド」を（再び）確立するため（北達伊佐雄社長）、人材への投資は惜しまない覚悟だ。